

# なぎなたで世界の頂点に

松浦高校講師板垣勇さんが、世界なぎなた選手権大会で団体の部金メダルと個人の部銅メダルを獲得。



## Interview 板垣 勇<sup>いさむ</sup>さん 松浦高校講師

7月3日、兵庫県立武道館で行われた「第5回世界なぎなた選手権大会」で板垣勇さんが、団体男子の部で金メダル、個人男子の部で銅メダルに輝きました。

板垣さんは、これまでも世界選手権大会に4回出場し第2回ベルギー大会では個人男子の部で銀メダルを獲得。全日本男子なぎなた選手権大会でも過去10回の大会のうち4大会を制するなど国内はもちろん世界の舞台で活躍しています。

この人に  
**LOSE UP!**  
まっつら  
**輝人**キラリ

Q 世界選手権大会を終えての感想をお聞かせください。

A 日本の国技であるなぎなたの日本の代表に選ばれたわけですから、海外の選手に負けることは絶対に許されません。しかし個人戦で海外選手に敗れ大変な責任を感じました。

団体戦では、大将として大きなプレッシャーの中で戦ってきたので優勝してホッとしましたね。

Q 世界を相手に戦うようになるために、どのような努力をされたのですか。

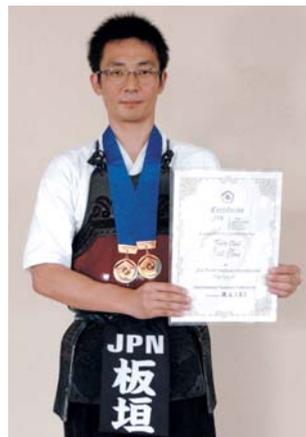
A なぎなたを始めたのが指導者としてでしたので、なぎなたを広めたいことと、高校生にできるだけのいいなぎなたを教えるというのが、私の原動力になっています。そういう想いで努力したことが自然と結果につながってきたのだと思います。

Q なぎなたの魅力は何ですか。

A なぎなたそのものの魅力をいえば、道具が2対25の長物ということで扱うのは難しいので、自分の思うままに操作ができるようになったときのうれしさと達成感は格別です。

Q 3年後の「がんばらば国体「なぎなた競技」に向けての意気込みや、これからの夢などを教えてください。

A 自分の活躍が長崎のなぎなた界の刺激になればと思います。また、せっかく縁あって松浦にきたわけですから、指導者として選手の育成に励みながら、なぎなたの普及と発展のために頑張っていきたいです。町中で、なぎなたを担いで道場に向かう子どもたちの姿が見られるようになってほしいですね。



### ◎ PROFILE

板垣 勇さん

(志佐・大浜西、39)

島根県出身。小学2年生から剣道を始める。24歳の時、学校でなぎなたの指導にあたったのを機になぎなたに転向。現在、松浦高校なぎなた部副顧問。好きな言葉は、我以外皆我師。

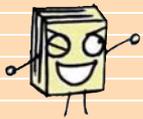


フィオナ・マニング  
Fiona Manning  
オーストラリア出身

3月11日の大震災から5カ月が経とうとしていますが、まだまだ日本は大変な状態です。被災地の再建はいうまでもなく、東京までおよぶ放射線の懸念は治まりません。放射線量の心配から多くのALTが帰国したと聞いていますが、長崎県ではたった一人でした。放射線への懸念に加え、再び起こるかもしれない大地震または津波の恐れで日本の観光客が非常に減っています。今年のマツカイ市からの青少年団使節団の松浦訪問も来年まで延期となったと聞いて、とても残念に思いました。今は以前にも増して観光客や姉妹訪問を無くしてはいけな時期だと思えます。

大震災後の外国からの多くの寄付は、とても素晴らしいことですが、それは「バンドエイド」のような応急処置でしかありません。痛いところを短い間だけ治しますが、いつまでも効くわけではありません。日本の未来のために、来

年も10年後も100年後のためにも、観光で経済を刺激させたり、国外との交流で海外から入ってくるお金を増やしたりすべきだと思います。その点で、私も一生懸命オーストラリアの友達に日本旅行を勧めています。2年前遊びに来た親友が彼女の両親を私のところに送り出してくれました。2月に連絡があったとき、ぜひ福岡に来て、長崎を見てから新幹線に乗って広島、京都、東京に行ってみてくださいと提案しました。震災後中止しようかという考えは一切なかったそうです。日本訪問をとて楽しみにしていたお母さんとお父さんが、私の大好きな国にやってきました。大震災の心配にも負けず、梅雨にも負けず、ここで過ごした時間が旅行中最高だったと言ってくれました。今度、こちらからの誘いがあればぜひまた来ますと言って、無事に楽しく日本の旅行を終えました。



## 図書館の おすすめ本

市立図書館  
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで  
「松浦市立図書館」を検索



『しあわせ節電』  
鈴木 孝夫／著 文藝春秋  
この夏のキーワードと言えば“節電”と答える人も多いのではないのでしょうか。テレビやラジオなどでこの二文字を聞かない日はありません。「節電」というと「我慢」という言葉を連想しがちですが、戦前から節電生活を送る社会言語学者の著者は“愉しみながら”と説きます。「全身節電人間」のしあわせ節電。節電のイメージが変わります。



『星が導く旅のはてに』  
スーザン・フレチャー／著 徳間書店  
舞台は古代ペルシャ。少女ミトラは死者の町で幼い弟と二人で隠れ暮らしていた。王権争いに敗れた父。家族は散り散りになり王家の末裔という誇りだけが支え。そんなある日、弟ババクに夢見の力がある事がわかった。その力を利用する者に捕らえられ旅が始まる。キリスト生誕の話をベースに三賢者やヘロデ王も実名で登場。隊商を組みベツレヘムへ至るまでが描かれる。

### ◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どものお気に入りの1冊を紹介します。



志佐町里免の田中さやかさんと  
麗愛ちゃん(3歳)

#### 【お気に入りの本】

『ようせいリンリンのみみつ(それいけ!アンパンマン)』  
やなせたかし／作 フレーベル館

#### 【お母さんからひとこと】

「図書館は以前から利用させていただいております。年齢にあった絵本や紙芝居がたくさんあり、娘も本が大好きになりました。靴を脱いで絵本を読む部屋があるので小さな子どもがいても安心して利用できます。図書館に来ると好きな本を選んでここで一緒に読んでいます。自宅でも寝る前などに一緒に読んでいます。これからも子どもの成長に合わせて色々な本を読みたいと思っています。」

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館も大歓迎です!